

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)宝塚市新庁舎新築工事	階数	地上2F
建設地	兵庫県宝塚市東洋町1-3他	構造	RC造
用途地域	市街化区域、東洋町地区景観計画特定地区、第4種高度地区、法第22条区域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2021年5月10日
敷地面積	42,993㎡	作成者	湯浅 武夫
建築面積	2,982㎡	確認日	2021年5月20日
延床面積	5,206㎡	確認者	湯浅 武夫



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>宝塚市の新たな顔となる施設づくりとし、新市庁舎が建設されても現市庁舎への動線を妨げないよう、前面道路から現市庁舎の動線上をピロティとし、直線的に移動できるようにした。また現市庁舎は村野藤吾氏の歴史ある優れた建築物のため、前面道路から現市庁舎への見通しを妨げないよう一部平屋建てとし視認性に配慮した。新市庁舎のデザインは現市庁舎の意匠性を尊重し、水平ラインや列柱による垂直性をデザイン要素として本施設に取り入れた。</p>		<p>その他</p> <p>基礎工事や外構工事で発生する掘削土は敷地内利用とし、場外処分が発生しない工事計画とした。建物のファサード面は、現市庁舎にも用いられるレンガを現代風に踏襲し、透かし積みのレンガスクリーンを設けた。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>居室を外壁に面して配置し、全面開口部とし、光が内部に入る心地よい空間とした。また窓上に連続した庇を設け、夏季の直射日光を遮断するよう努めた。執務室はLow-E複層ガラスを採用し、外皮性能の向上に努めた。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>1階に自販機置場や2階に屋上テラス等、リフレッシュスペースを設置した。また災害時には施設運用が中断しないよう、非常用発電機や備蓄倉庫の設置、サーバー室床の部分免振等を行った。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>前面道路から現市庁舎の動線上にピロティを設け、動線計画を整理するとともに、雨天時にも活用できる憩いの場とした。現市庁舎と新市庁舎の途中に緑化整備した屋上テラスを設け、緑豊かで快適な屋外空間を設けた。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>執務室にはLow-E複層ガラスを設け、熱負荷の低減に努めた。屋上に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを利用する計画とした。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>基礎下部等に用いる砕石には再生クラッシュランを採用した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>車での来庁者はもちろんのこと、自転車での来庁者にも配慮し、適切な量および場所に駐車場・駐輪場を計画した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される